

一般社団法人日本体力医学会評議員申請要項

令和2年度より評議員選考内規が下記のように改定され、選考基準が若干緩和されました。また評議員推薦書の書式も若干簡略化されましたので、お目通しの上評議員の資格を満たすと思われる候補者についてはぜひとも奮って推薦・申請いただくようお願い申し上げます。

なお、とくに女性評議員の比率増加に努めておりますのでご協力の程よろしくようお願い申し上げます。

I. 申請資格：下記、評議員選考内規をご参照下さい。

◎日本体力医学会評議員選考委員会評議員選考内規

昭和62年10月7日改定
平成6年11月18日改定
平成24年7月20日改定
平成28年8月26日改定
令和2年2月21日改定

1. 評議員候補者は、通算7年以上の正会員歴を有していなければならない。
2. 評議員候補者は、7年以上の研究歴を有し、体力医学、運動生理学、スポーツ医学などに関する十分な研究業績の著書、学術論文などの業績発表を有していなければならない。
3. 評議員候補者は、評議員3名の推薦をうけて、入会年月日を明記した履歴書および業績目録を添えて、評議員会開催2カ月前迄に評議員選考委員会に申請しなければならない。
4. 日本体力医学会の学会運営に必要と認められるものは、必ずしも上記条件を満たしていなくとも評議員選考委員会の議を経て、その推薦により評議員候補者となることができる。
5. 評議員選考委員会は、推薦された評議員候補者を審議し、評議員の資格を有すると認められたものを、理事会へ報告し、評議員会に推薦する。

付 則

- 1) 体力医学に関係する領域の学会で評議員を務めるかこの領域で博士の学位を取得しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
- 2) 日本体力医学会より授与された日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を有しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
- 3) 研究業績については、原則として、体力医学に関係する審査を受けた学術論文（原著論文、総説、短報、など）を筆頭著者として3編以上発表していることを基準として、評議員選考委員会で審議する。
- 4) 体力医学に関係する学会の学術大会等で大会長や組織委員会等より指名を受けた指定演題（特別講演、シンポジウム等）の口演発表を行った場合には、付則3)の審査を受けた学術論文の1編と同等の研究業績として評価し、評議員選考委員会で審議する。
- 5) 申請書類の送付先は 一般社団法人 学会支援機構内 日本体力医学会評議員選考委員会とする。

II. 申請手続きについて

下記書類をHPの評議員申請 (<https://plaza.umin.ac.jp/jspfs/councilor/index.htm>) からダウンロードの上、ご記入・ご提出下さい。

- 1) 評議員推薦書（評議員3名の氏名と会員番号が必要です）
- 2) 履歴書

3) 研究業績

申請書類の書式に不備があると審査不可として再提出を依頼する事があるので、規定に則って正確に記載して下さい。

Ⅲ. 承認までの流れについて

- ① 評議員申請書受付締め切り：2025年7月20日
- ② 提出期間満了後に評議員選考委員会で確認・選考を行う。
- ③ 同年9月に開催予定の理事会および評議員会総会において報告・承認を行う。

■ 申請書提出先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 RENEX Shin-Otsuka 3階
学会支援機構内
一般社団法人日本体力医学会評議員選考委員会
Tel：03-5981-6015（学会専用） Fax：03-5981-6012（学会支援機構）
E-mail：jspfsm@asas-mail.jp

評議員選考委員会 委員長 浜岡隆文

第37回日本体力医学会北陸地方会大会のご案内

開催日 2025(令和7)年6月15日(日)

日程

9:20～ 受付

10:00～10:50 社員総会

10:50～11:00 開会挨拶

11:00～12:30 特別講演

「古くて新しい運動支援の可能性：体力科学と医療の連携がもたらす未来」

講師：小熊祐子 氏

慶應義塾大学スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科 教授

12:30～13:30 昼食休憩・懇親会

13:30～15:00 シンポジウム「体力科学の応用(仮題)」

15:15～16:15 一般口述発表(研究発表)

16:20～17:00 ポスター発表(研究発表)

17:00～17:10 若手研究者表彰 閉会挨拶

場 所 黒部市国際文化センター「コラーレ」

マルチホール他

〒938-0031 富山県黒部市三日市20番地

TEL：0765-57-1201

参加申込

「参加申込および一般演題発表申込の要領」を参照の上、大会事務局へ送信してください。

参加申込の締切：2025年5月28日(水) 17時

一般演題発表申込の締切：2025年4月30日(水) 17時

※本大会は健康運動指導士・健康運動実践指導者の登録更新認定講習会(講義3.0単位)として、(公財)健康・体力づくり事業財団へ申請予定です。

※一般演題において、令和7年12月31日時点で39歳以下の発表筆頭者を対象に『若手優秀研究発表賞』の授与を予定しています。

※非会員の方々の参加や発表も歓迎いたします。

参加費

会員および学生1,000円 非会員2,000円(軽食代含む)

大会当日にお支払いください。

学生の方は学生証を受付でご提示ください。

発表抄録

一般口述・ポスター発表申込者は、参加申込に加えて抄録原稿を電子データにて大会事務局へ電子メールで送信してください(締切：4月30日)。抄録は学会誌「体力科学」掲載原稿の書式(25字×36行=900字以内)に従い、MS-Wordにて作成してください。

発表方法

口述発表：発表時間15分間(発表10分、討論5分予定)、MS-PowerPointによるスライド映写。

ポスター発表：フリーディスカッション40分間予定。

照会先

大会事務局

黒部市民病院臨床スポーツ医学センター 長崎成良

〒938-8502 黒部市三日市1108番地1

TEL：0765-54-2211(内線5310)

E-mail：s.nagasaki@med.kurobe.toyama.jp

参加申込および一般演題発表申込の要領

【参加申込の要領】申込締切：2025年5月28日(水) 17時

以下のリンク「第37回日本体力医学会北陸地方会大会

参加申込フォーム」をご利用の上、お申込みください。大会事務局で確認後、参加申込受諾のメールを返信いたします。5日間を経過しても申込確認のメールが届かない場合は大会事務局までご連絡ください。

また、参加を取り止める場合は、**6月13日(金) 17時**までに大会事務局までご連絡ください。

大会事務局：

黒部市民病院臨床スポーツ医学センター 長崎

Email：s.nagasaki@med.kurobe.toyama.jp

TEL：0765-54-2211 内線5310

第37回日本体力医学会北陸地方会大会

参加申込フォーム

https://docs.google.com/forms/d/1KCb10J5K8E3IVZ005cX2vDpymotiw_e5U1NQpu57_k/edit

10J5K8E3IVZ005cX2vDpymotiw_e5U1

NQpu57_k/edit



【一般演題発表申込の要領】

申込締切：2025年4月30日(水) 17時

一般口述・ポスター発表では、発表者が当日の参加費を納付することで日本体力医学会の会員・非会員を問わず発表することができます。また、ポスター発表では研究計画や予備データの発表等も受け付けます。

研究者や学部生・大学院生、健康運動指導士・健康運動実践指導者、学校教員等の発表も歓迎いたします。

抄録原稿はMS-Wordを使用し、学会誌「体力科学」掲載原稿の書式(25字×36行=900字以内、表題・著者名・所属名を含む)にて作成してください。所定の書式に収まらない場合は、大会事務局にて発表の趣意を損なわない範囲内で文言の修正を行なうことがありますのでご了承ください。

作成した抄録原稿の電子データ(MS-Wordファイル)を大会事務局(s.nagasaki@med.kurobe.toyama.jp)へ電子メールで送信することをもって発表申込とします(別途参加申込は必要)。

メール本文に希望する発表様式(口述・ポスター・どちらでもよい)と生年月日を付記してください。抄録原稿が大会事務局に届きましたら、発表申込受諾のメールを返信いたします。5日間を経過しても申込受諾のメールが届かない場合はご連絡ください。

なお、発表筆頭者(筆頭著者)が日本体力医学会の会員ではなく、学会誌「体力科学」へ発表抄録の掲載を希望する場合は、大会当日に受付にて掲載料3,000円の納付をお願いします。「体力科学」への発表抄録の掲載を『若手優秀研究発表賞』の選考要件の一つといたします。

【ご依頼】日本体力医学会本部の会員情報にメールアドレスを登録されていない会員の皆さまへ

北陸地方会の学術大会開催案内、社員総会において承認された新役員名簿、会則・内規等の書類を、今後は電子メールにて配信する予定です。是非、メールアドレスの登録をお願いします。

メールアドレス登録の届出は、日本体力医学会北陸地方会事務局(山田：yamadat@u-fukui.ac.jp)へご連絡ください。

第31回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内（第一報）

コロナ禍にて長らく実施を控えておりましたが、2025年度日本体力医学会スポーツ医学研修会を実施する運びとなりました。従来の研修会とは異なる点がありますので以下に詳細を記します。

1. 第31回日本体力医学会スポーツ医学研修会の概要について

第31回日本体力医学会学術委員会主催の本研修会は基礎コースと応用コースに分かれ、基礎コースはオンデマンド教材による講義（12コマ）および学会大会における対面講義（シンポジウム参加）を行います。基礎コースを受講した方の中で希望する方はCBT（computer based testing）による試験を実施いたします。試験合格者は応用コース（対面での1日間の実習）の受講資格を有します。講義内容は下記のとおりです。

基礎コース（8月に実施、全て60分のオンデマンド教材および学会大会におけるシンポジウム）

基礎医学コース 4コマ

中枢・末梢神経系

運動器系

循環器・呼吸器系

代謝・栄養、加齢

運動・スポーツ医学コース 4コマ

スポーツ医学 内科

スポーツ医学 外科

運動処方基礎（レジスタンス）

運動処方基礎（有酸素）

運動療法（予防、健康づくり、公衆衛生、リハビリ）コース 4コマ

運動器疾患に対する運動療法

運動による健康づくり（身体活動量増加とその評価などの実践）

メタボリックシンドロームに対する運動療法

運動疫学（身体活動量増加とその評価などの理論的背景）

基礎コースは2025年9月17日～19日に実施される第79回日本体力医学会大会における指定シンポジウムを少なくとも一つ受講することにより受講修了とします。

CBTによる試験（10月に実施）

全国360か所の試験会場からご自身の都合のよい場所で受験してもらいます。受験期間は1週間設定しますので任意のタイミングで受験してください。

問題は基礎コースの内容に基づき出題され4択50問で100点満点とし6割以上を合格とします。合格者は応用コースの受講が可能です。

応用コース（12月に対面にて日本体育大学 東京・世田谷キャンパスで実施予定）

CBT試験合格者が受講資格を得るものとします。

参加形式は対面とします。実施期間は1日とし、実施内容は運動機能検査（呼吸循環器系運動負荷試験および筋機能測定）、ロコモテスト、サルコペニア診断などとなります。

2. 日本体力医学会健康科学アドバイザー®について

全ての課程を修了した方は所定の手続きを経ることにより「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受

けることができます。称号取得を希望される方は日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

3. 受講資格

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。

4. 申し込みについて

4月より受講者の募集を開始します。申し込み方法の詳細については日本体力医学会ホームページに掲載いたします。

日本体力医学会
学術委員会
スポーツ医学研修会委員会

編 集 後 記

体力科学第74巻2号をお届けいたします。本号には、<ノート>として村上亜弥子先生らによる血管内皮機能に関する研究、<資料>として丸山哲先生らによる座位行動の削減を目的とした疫学的調査研究、さらに中垣浩平先生による運動時の呼吸循環器系パラメータの新たな計測法に関する論文が掲載されております。本誌を通じて、体力科学研究の醍醐味を存分に味わっていただける内容となっております。

さて、3月に入り2024年度も終わりを迎えようとしております。多くの大学院研究科では、学位審査会を終え、修了式を迎える時期かと存じます。本学会員の先生方の中には、修士論文や博士論文の指導に深く携わっておられる方も多くいらっしゃることでしょう。博士論文については、学位授与の条件として学術誌への掲載が義務付けられている場合がほとんどかと思えます。もし本誌、あるいはJPFSM誌への掲載が、ご所属先の学位授与要件を満たすようでしたら、ぜひ投稿をご検討ください。

一方、修士論文については、学術誌への掲載を義務付けていない機関がほとんどかと存じます。そのため、図書館等への提出のみで日の目を見ない論文も多く、また

学会発表のみで終わらせるケースも少なくありません。指導者の判断により「投稿には至らない」と諦める場合もあるかもしれませんが、n数を増やす、追加解析を行う、あるいは（少しだけ）追加実験を実施することで、十分に学術誌へ投稿可能な論文となるケースも多いのではないのでしょうか。

指導していた院生が修了してしまうと、論文投稿に必要な追加実験等が困難になることが、投稿に至らない要因の一つかもしれません。しかし、先生方がこれまでご指導されてきた修士論文の中には、間違いなく体力科学分野の発展に寄与する価値ある研究が眠っているはずで、卒業論文でさえ、その可能性がゼロとは言い切れません。

どうか可能な限り、本誌への論文投稿に至るようご指導を賜りますようお願い申し上げます。所属機関が発刊する学術誌や紀要などからも同様の依頼があるかと存じますが、多くの大学院指導者の先生方におかれましては、ぜひともご尽力いただければ幸甚です。

和 氣 秀 文

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.74, No.2

体 力 科 学 第 7 4 巻 第 2 号

令和 7 年 3 月 25 日 印 刷
令和 7 年 4 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

後 藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
RENEX Shin-Otsuka 3F 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社
